

## 「相中相高百年史」より ( 戦時体制下の相馬中学校 20 )

### 10 学徒動員

#### (9) おわりに

1945 (昭和 20) 年 8 月 15 日に工場で終戦を迎えた。8 月 19 日になって我々相中生は、引率の和多田先生のお骨折りで、ようやく東北本線回りの貨物列車に乗って帰相する事ができた。道中は食事もなし、トイレもなく、現在ではとても考えられない汽車の旅であった。相馬まで帰るのに一昼夜以上かかったと記憶している。

この勤労体験で、得た物の一つに、「路傍の石」のように踏まれても踏まれてもへこたれない「精神力」を身につけることができたと思っている。これは、勤労動員否軍国教育によって鍛えられた財産だと思っている。

「勤労動員」を書くことになり、戦時中の我々の様子を後世に伝えることができるのは誠に意義深い。今までの戦争体験談は直接戦場で戦ったこととか、被爆の話が多い。我々は直接戦場には行かなかったが、銃後あつてもさながら戦場にいたと同じような目に遭い、戦力の一端を担って戦っていたのである。そんな当時の先輩たちのいろいろな体験談を読んでもらうことにより、戦争を全く知らない生徒たちに、二度と再びこの様な悲劇を繰り返させたくないという悲願を伝えることができるならば、筆者はこの上ない喜びである。

#### この項の参考文献

白山道	相馬中学校白山道編集委員会
戦 壘	都留中学校 戦壘編集委員会
相中相高八十年	創立八十周年記念事業実行委員会
多賀工業会会報	茨大工学部同窓会多賀工業会
東京大空襲の記録	東京空襲を記録する会

#### 「勤労奉仕作業と通年勤労動員」の項を転載し終えて

2021.7.29 村山正之

上記は、『相中相高百年史』の「勤労奉仕作業と通年勤労動員」の項を締めくくる文章である。執筆者は、熊耳敏さん (中第 46 回 昭和 22 年卒 大甕出身) である。

本当に、この悲劇は繰り返させたくない。国家は人間がつくっている幻である。その時代に権力を握った者の主義・主張に支配されで上がる。何百年も同じ国家が続くことなどないことは歴史が証明している。

20 世紀の世界の歴史を見ても、民衆の命や生活は、いつの間にか、それぞれの国家や民族の大きな流れのうねりの中に飲み込まれて行った。今も、否いつも、世界のどこかで、命や人権が侵される事態は発生している。命を盾にする支配者とその同調者たちの恐怖にさらされると一人一人の人間は弱い。

日本だけを見ると、ここ 70 数年は、幸運にも、戦争のない時代が続いている。平和や民主主義は、過去の歴史に学び、世代のバトンをつなぐ努力をしないと続かないものだと思っている。

悲劇を繰り返さないためにも、「相中相高八十年」と「相中相高百年史」の「思い出の記」の中から、学徒動員やこの時代に生徒だった先輩の方々の貴重な体験記録を抜粋して、「馬城かわら版」にもう少し載せていこうと思う。